

中学生の「性」に関する意識調査とセクシュアルライツ教育出前授業

事業責任者 遠矢 家永子

「高槻市協働活性化モデル事業」の補助を2年続きで受けることができ、07年度は中学生を対象に「性」意識アンケート調査とセクシュアルライツ教育に取り組みました。

「協働活性化モデル事業」とは、NPO等と行政とが社会的な課題などを共有し、それぞれの役割と責任をもって協力・連携して取り組むことで、単独で取り組むよりも効果的な成果が得られるとの考えのもと市民に募集し、選考・採択を経てモデル的に取り組む事業のことで、07年度は4団体が採択されました。SEANの事業提案は、選考委員会にて「男女共同参画推進条例の実践例として意義がある。出前授業の結果報告は、大きな課題の提起になると考えられる。是非、積極的に取り組んでいただきたい」ともっとも高

い評価を得て採択されました。

高槻市教育委員会との協働で、まず教育センターにて幼・小・中学校教員を対象に健康教育・生徒指導・人権教育・養護教諭研修として研修を実施しました。「子どもを取り巻く『性』の現状と課題〜一人ひとりのかけがえのない『こころ』と『からだ』〜というタイトルの約1時間30分の講座で、その後、参加された先生の勤務小学校から教員研修をご依頼いただきました。次につなげることもできました。

その後、教育委員会が全中学校を対象に出前授業の受入れ校を募集し、中学校3校から手が挙がりました。授業実施前にとった「性」意識アンケートは、教育委員会や先生方の意見を聞きつつ作成し、学校の協力のもと行い、授業終了後には簡単な自由感想を書いて

もらいました。

「最初は何でこんな事で話さかなあかんねん」と思ったケド、話を聞いていくうちに自分らのために言ってくれてるんやと思いました。一人ひとりが『性』に対する権利を持つているんだなと思いました。これからの自分らにとって良い勉強になりました。今後こういう場に出くわした時に役立てたいです」(中学2年生の感想から)

生徒から「性」に関する戸惑いや気恥ずかしさを感じることもありましたが、「性」を自らの「人権」として捉えなおす力強さも感じました。特に、「愛」と「支配」「束縛」「所有」の違いについては、「この飼いの主はオレだつてんだろ!」というマンガの1コマを見せ、「飼う」ということはどういうこと?」と問いかけると男子から「首輪をつけて自由を奪うこと」との意見が返ってくるなど、具体的に「恋愛」と「束縛」の違いをイメージづけることができました。

中学の頃は、「両想い」へのほのかな憧れをもっていたり、実際に「つき合い」始めていたり、まったく興味がなかったりと個人差が

大きいのですが、その時期に互いに安心し尊重し合える「恋愛」関係についての知識を得ておくことは、とても意味のあることだと今回の取り組みを通して感じました。

調査結果では、女子は少女マンガ誌・少年マンガ誌・ファッション誌をよく読んでおり、男子は少年マンガ誌・ゲーム誌をよく読んでいました。「性」については「大切」「愛」などのイメージはあまり持っておらず、知りたいこととして「恋人とのつき合い方」「他者の気持ち」などが挙げられました。それらの情報源は「友だち」「TV」「マンガ」「雑誌」であり、それらメディアに書き込まれている「性」情報を調べること、子どもたちをとりまく「性」の課題や教育におけるアプローチの仕方を模索できればと思います。意識調査をとりまとめた冊子は、高槻市の全幼・保・小・中学校に各5部配付しています。

今回の取り組みの内容は、必ず次につながります。取り組みに関する報告会を、12月に予定しています。興味のある方は、SEANまでお問合せを!